



第188回国際研修 「犯罪者処遇の理論と効果的な実践」

1 日程及び参加者

- 令和7年8月27日（水）から同年9月18日（木）まで
- 海外参加者14名（13か国から参加）
- 国内参加者4名

2 目的

本研修は、犯罪者処遇に関する理論について学び、各国が理論的根拠に基づいた適切なアセスメント及び処遇を実施し、それらの効果を測定・検証しながら、より効果的な処遇へと発展させていくための方策について理解を深めることを目的として実施しました。併せて、これらを実践する職員の能力向上や、協力機関との連携のあり方についても検討することで、各国における効果的な処遇の一層の充実を図ることを目的としました。

3 研修の内容

（1）講義

次の専門家による講義を行い、講義の後に質疑応答の機会を設けました。

【海外の専門家による講義】

「犯罪者処遇に関する理論：RNRモデル」

「犯罪者処遇に関する理論：グッドライブズモデル・デシスタンスモデル」

「専門的処遇プログラム及び効果検証の手法」

「海外での試行及び導入例：フィリピン司法省保護局におけるRNR」

南イリノイ大学 レイモンド・ナラグ准教授（犯罪学・刑事司法）

【日本人の専門家による講義】

ア 「少年事件における家庭裁判所調査官による社会調査」

東京家庭裁判所立川支部 川村 哲 総括主任調査官

イ 「特性に応じた矯正処遇等の充実」

法務省矯正局成人矯正課 塚原 章裕 専門官

熊谷 渉 法務事務官

ウ 「日本における社会内処遇及び新たなアセスメントツール」

法務省保護局観察課 中野 智之 補佐官

エ 「動機づけ面接法（基礎編）」

矯正研修所 青木 治 分析官

（2）個人発表

各研修参加者が、人身取引に関する自国の現状や課題を発表しました。各発

表に対して、他の研修参加者から多くの質問が出され、活発な質疑応答がなされました。

(3) 施設見学

以下の施設を見学し、日本における犯罪者処遇及び職員的能力構築に関する取組等について学びました。

- ・多摩少年院
- ・東京西少年鑑別所
- ・川越少年刑務所
- ・矯正研修所

(4) グループ討議・発表

研修参加者を3つのグループに分け、個人発表、講義及び施設見学を通じて得た知識を踏まえ、効果的な犯罪者処遇の充実化について討議を行いました。具体的には、アセスメント、効果的な処遇プログラム、結果の測定・効果検証及び職員的能力向上・協力機関との連携について議論がなされました。そして、討議の結果を、全研修参加者や当研修所職員の前で発表し、質疑応答を行いました。

4 研修参加者からのフィードバック等

研修参加者からは、満足度の高い研修プログラムであったこと、また、日本の取組についても詳しく学ぶことができて非常に有益であったといった肯定的な感想が多く寄せられました。また、本研修を通じて、日本文化に興味を持った研修参加者も多く、副次的な効果も認められました。

5 担当教官の所感

犯罪者の改善更生を図り、社会の安全を確保するためには、各国が理論的根拠に基づく処遇を実践し、その効果を測定・検証しながら、より効果的な方法へと発展させていくことが重要です。制度の導入や運用の状況は国によって様々ですが、課題への対応に苦慮している参加者も少なくありませんでした。こうした中で、一度職場を離れ、実務家同士が集い、各国の現状や取組を共有しながら問題解決の方策を探る機会は、大変貴重なものとなりました。

本研修では、犯罪者処遇に関する複数の理論を学ぶとともに、理論に基づくアセスメントや処遇の実施、これらの結果の測定及び効果検証、更には実施者である職員的能力向上や関係機関との連携に至るまで、処遇における重要な内容を包括的に取り上げました。海外講師として来日いただいたレイモンド・ナラグ博士からは、実際に新たなアセスメントツールと専門的処遇プログラムの導入・実施に携わった経験や、導入過程における工夫・課題を具体的に共有いただき、参加者はより実践的な理解を深めることができました。ナラグ博士の講義には法務省関係部局等からも多くの聴講希望があり大きな反響があり、日本の実務家にとっても貴重な機会となりました。また、ナラグ博士は、夜間や滞在中の週末に開催された昭島矯正展などの課外の時間も含めて、精力的に研修参加者と関わって下

さり、個別に意見交換や助言をしていただくなど、宿泊研修の利点を最大限引き出していただきました。家庭裁判所及び法務省からお越しいただいた国内講師の皆様からは、日本の制度や最新の取組に加え、処遇技法についても御紹介いただきました。

本研修参加者の多くは、矯正施設職員又は保護観察官でしたが、裁判官等の法律の専門家の参加も得られたため、法的、制度的な枠組みといった処遇者とは異なる視点からも質問がなされるなど充実した研修となりました。また、研修参加者たちの日本文化への関心も高く、スマートフォンを使って自発的に日本語を学び、国内講師等と積極的にコミュニケーションを取ろうとする参加者の姿も印象的でした。研修終了後には、各国で研修成果を報告する様子や、追加資料の提供を求める問い合わせが寄せられるなど、参加者が本研修で得た知識や経験を自国の制度の発展に活かそうとする姿勢に、大変心強さを感じています。

今回の研修を通じて、熱意あふれる素晴らしい研修参加者の皆さんと出会い、知識や経験を共有し、そして新たな関係性を築くことができたことは、私たちにとっても多くの財産となりました。

以上